

ほっこり ウィークリー

(毎週金曜日発行)

89号
2022
3.25

京都府立植物園

〒606-0823 京都市左京区下鴨半木町
TEL 075-701-0141 FAX 075-701-0142
<http://www.pref.kyoto.jp/plant/>

園内で野鳥の死骸を発見されましたら、鳥インフルエンザの疑いもありますので絶対に触らずに職員や各門へお知らせください。

～桜ライトアップ!～

3/26(土)～4/10(日) 夕暮れとともに光が灯ります! 午後9時閉園(入園は8時まで)

※同時に観覧温室夜間開室! 午後5時半～午後9時閉室(入室は8時半まで)

← 京都府立植物園[公式]Twitterアカウント始めました! 見頃情報を中心につぶやいています。

京都府立植物園[公式]YouTubeチャンネル始めました! 動画で園内の様子を紹介しています。 →



第61回 つばき展

○期間: 3月25日(金)～3月27日(日)
○場所: 植物園会館1階展示室、2階多目的室
○内容: 京都の名椿などツバキの切り枝を展示

◆3/26(土)園内つばき探訪

植物園会館前集合 13:00～13:45

「園内の椿案内」

案内: 植物園職員

◆3/27(日)つばき展 関連講演会

植物園会館2階研修室 13:30～15:00

(当日受付 13:00～) ※定員: 当日先着60名

「私とつばき 市家のつばきと上賀茂神社のつばき」

講師: 市忠顕氏(京都園芸倶楽部会長)

第6回 絶滅危惧植物講演会

○日程: 3月26日(土)
○時間: 13:00～15:15(受付は12:30～)
○場所: 植物園会館2階研修室
○内容

「絶滅危惧植物の保全について」

瀬戸口浩彰氏(京都大学教授)

「府立植物園のナショナルコレクション」

平塚健一技術課長

「アマミアセビの保全活動」

長澤淳一氏(京都府立大学特任教授)

○定員: 当日先着60名

第30回 球根ベゴニア展

○期間: 3月26日(土)～4月10日(日)
○場所: 観覧温室(ジャングル室)
○内容: 球根ベゴニア約300鉢を展示

◆4/3(日)球根ベゴニア展 関連講習会

観覧温室特別展示室 13:30～

「園内における球根ベゴニアの栽培方法」

講師: 植物園職員

※定員: 当日先着20名

第41回 京都盆栽展

○期間: 4月1日(金)～4月4日(月)
○場所: 植物園会館1階展示室
○内容: 盆栽約30席、80点を展示(販売あり)

小菊盆栽作り講習会(全5回) 募集中!!

第1回: 4/3(日) 13:00～14:00(受付12:30～)

★小菊を使った盆栽仕立ての実演指導 ★定員: 事前予約30名

★参加費: 1,000円(別途、入園料が必要)

★事前申込: 往復ハガキに講習会名、住所、氏名、電話番号、栽培経験の有無を明記 ★必切: 3/27(日) ★会場: 植物園会館2階多目的室

「土曜ミニミニガイド」 技術課職員が植物解説!

毎週土曜日は・・・

植物園会館前集合: 午後1時スタート!

「水曜ミニガイド」 植物園認定ガイドがご案内!

毎週水曜日は・・・

植物園会館前集合: 午後1時スタート!

「園長と園内散歩」

4月17日(日) 何処を歩くかはお楽しみ!

植物園会館前集合: 午後2時スタート!

「植物園ガイド」が植物案内!

～見どころ案内・魅力解説・楽しさ倍増!～

- ① 7名以上のグループや団体で来園される方を対象
- ② 申込は希望日の10日前までに。(要相談)
- ③ ガイドは1時間程度。(無料)

* 申込先: 京都府立植物園 TEL 075-701-0141

植物園芸相談

■ 毎週 日曜日 午前9時～正午、午後1時～午後4時

■ 電話075-701-0141



スマホdeガイド

QRコードをスマホで読み込み、「位置情報を利用する」に設定!

京都府立大学との共同により、スマホを使って園内の自分の位置が確認できる『スマホdeガイド』を作成! 「おすすめ樹木めぐり」「おすすめエリアガイド」などをスマホで確認し、植物観察!

※年間パスポート好評発売中

・1年間、何度でもご利用いただけるお得なチケットです!

大人1000円 高校生750円

・入園門でご購入いただけますので是非お買い求めください。

※温室観覧料は別途必要となります。

植物園HP!



今週の「探して！」
2022. 3. 25
89号

⑫ プリムラ・パリヌリ

サクラソウ科。イタリア南部に分布。沿岸地域の標高200m程度の石灰岩の岸壁に生息している。北側、または北西側の斜面を好む。岩の亀裂に根を下ろし、堆積土の奥深くまで浸入する。15~20cmの花茎の上部に多数の花を咲かせる。

⑪ ギンヨウアカシア

マメ科。オーストラリア南東部原産。黄色い房状の花を咲かせるアカシア属の総称で「ミモザ」とも呼ばれる。ミモザ(mimosa)は本来オジギソウ属を指すが、仲間のフサアカシアの葉がオジギソウに似ていたため誤って呼ばれるようになった。

⑩ メディニラ・マグニフィカ

ノボタン科。フィリピン原産。茎の先端やその付近の葉腋から長い花茎を下げ、長さ10cmほどの淡紅色の美しい苞をつける。その先にコーラルピンクの小花を多数つけ、長期間咲き続ける。別名はオオバヤドリノボタン(大葉宿野牡丹)。

⑨ クロッカス

アヤメ科。地中海沿岸から小アジアにかけて分布。香料や染料、薬品に用いられることで有名なサフランはクロッカスの仲間。早春を告げる花として人気が高く、早咲き系の種類は、寒さの残る2月中旬には開花が始まる。

① ミツマタ

ジンチョウゲ科。中国原産。下を向いて咲く花には芳香があり、小さな花が集まって半球形をつくっている。枝は3つに分枝し、これが名前の由来。強い繊維質の樹皮は、強度の高い良質な紙の原料として有名で、紙幣などにも使われている。

② ハナナ

アブラナ科。ヨーロッパ原産。江戸時代から採油目的で栽培されてきたアブラナに対し、ハナナは切り花や蕾を野菜として利用することを目的に栽培されてきた。切り花用は分枝が少ないが、食用は多く分枝するよう改良されている。

③ ナルキッスス・キクラミネウス

ヒガンバナ科。スペインからポルトガルにかけて分布。長い副花冠と反り返る花弁が特徴。シクラメンにも似た風貌であることから、シクラメンズイセンの名で呼ばれることもある。種小名のcyclamineusは「シクラメンのような」という意味。

④ 雪割草(ヘパティカ)

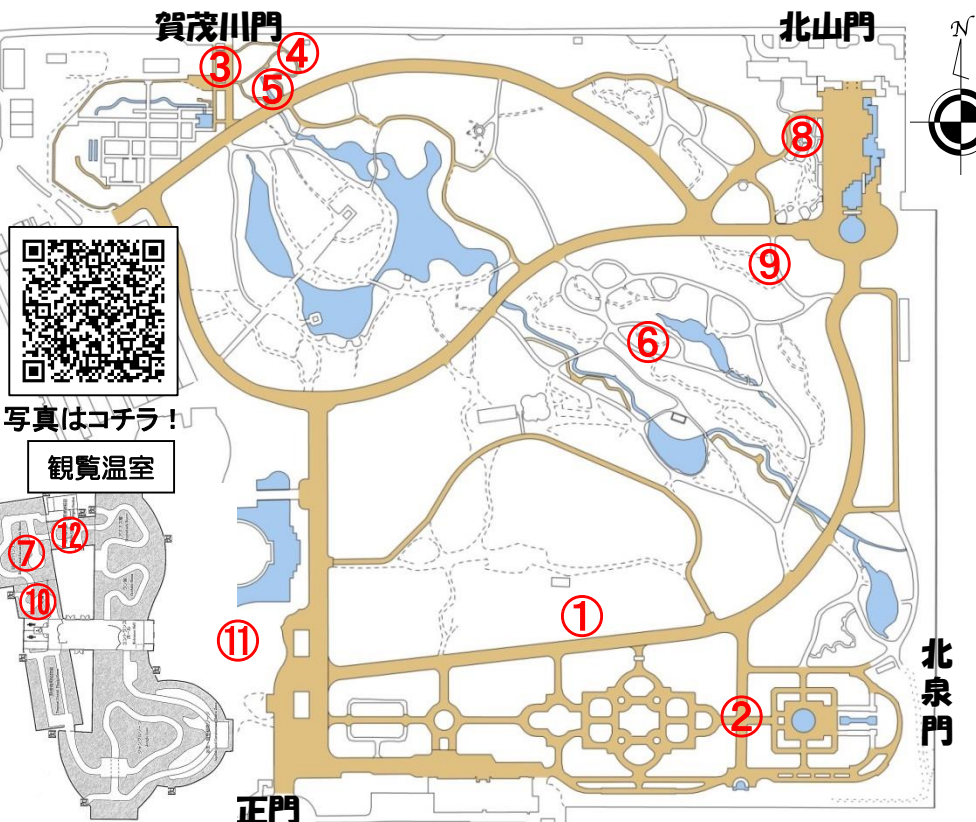
キンボウゲ科。雪解けとともに開花することが名前の由来。カタカナ表記の「ユキワリソウ」はサクラソウ科の別の植物を指す。花弁に見える部分はがく片で個体ごとに様々な色、模様があり、江戸時代から園芸植物として親しまれている。

⑤ アマミアセビ

ツツジ科。1963年に鹿児島県の奄美大島で発見され、当時は沖縄県に自生する「リュウキュウアセビ」と同じと判断された。その後、葉や花の形などが異なることが判り、2010年にDNAを解析した結果、奄美大島固有の新種と判明した。

⑥ アセビ

ツツジ科。本州、四国、九州の山地に自生。葉や茎には、有毒成分が含まれているため、馬が食べると毒にあたって酔ったようにふらふらとした足取りになることから、漢名で「馬酔木」と書かれるようになったとされる。



⑧ ムスカリ・アルメニアクム

クサスギカズラ科。アルメニアやイラン西部に分布。花茎は高さ10~30cmで基部が赤褐色を帯びる。花は濃青色の長楕円形。長さ約0.5cmで白色に縁取られている。花序の下方につく花は結実するが上方につく花は不稔性で淡青色。

⑦ ジョウニシキ(慈光錦)

ワスレグサ科。南アフリカ原産。本種はアロエの仲間の中では珍しく、葉の縁にトゲを持たない。葉は厚みがあり、長さ50cm程度になる。12~3月頃に長い花茎を立て、橙赤色~桃赤色の筒状の小花を多数つける。